
QA10-12 成人の検査は、必要ありませんか。

A

- ① チェルノブイリ原発事故後に明らかになった健康被害として、放射性ヨウ素の内部被ばくによる甲状腺がんの発症があります。甲状腺がんは被ばく時の年齢が低いほど発症のリスクが高いことがわかっており、チェルノブイリでは、事故当時の年齢が0～5歳など年齢の低い層に、事故後4～5年経ってから甲状腺がん発症の増加を認めていることが問題とされました。
- ② このため、福島県の甲状腺検査では、万一のことを考えて検査対象者の年齢幅を大きくとり、事故当時18歳以下の全県民を対象に、この検査を行い、さらにその方々が成人した後も長期的に見守っていくこととしました。

統一的な基礎資料の関連項目

下巻 第10章 162ページ「甲状腺検査 目的と対象」

出典：福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センターウェブサイトより作成

出典の公開日：平成27年3月31日

本資料への収録日：平成29年3月31日